釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和７年（2025年）11月10日発行　VOL 32

「成長する姿」＞「成功する姿」

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

６日（木）に全学年の生徒が学力テスト（文教テスト）に臨みました。１、２学年の生徒にとっては、これまでの中学校における学習を振り返り、自分がどれほど学習内容を理解しているかを確認し、理解できていない内容について復習していくことが主なねらいになるでしょうか。しかし、３学年の生徒にとっては、いわゆる「総合Ｃ」と呼ばれ、その結果が中学校卒業後の進路の決定に活用される資料の一つになることから、１、２学年の生徒とは意味合いが違います。３学年所属の教師は進路指導主事の高柳教諭の協力の下、今回を含めてこれまでの学力テスト等の結果をまとめて三者面談の資料を作成していきます。いよいよ３学年の生徒たちは進路の決定に向けて正念場を迎えます。高等学校等に入学して何を頑張りたいのかなどをしっかり考えて進路の決定をしてほしいと思います。

ところで、私たち大人は、生徒の「大人になった姿」をどう考えているでしょうか。幼いころは、生徒の「成長する姿」を願っているのだと思います。のびのびと元気に育ち、思いやりをもって友達とかかわり、少しずつ自分の言葉で世界を語れるようになる、自分の頭で考え、自分の足で歩き出す、そんな姿を思い描くのではないでしょうか。しかし、小学校（中学校）に入学すると学年が上がるにつれ、願いの形が「いい高校」、「いい大学」、「いい仕事」といった「成功する姿」へと移り変わっていくことがあるのではないでしょうか。気が付けば、生徒の歩みを見守る眼差しよりも、大人の期待の方が優先されてしまっていないでしょうか。一方で、大きな成功は望んでいないといっても「そこそこの大学に行ってほしい」、「せめて高校は出てほしい」という期待が寄せられることは珍しいことではないと思います。勉強はほどほどでよいけれど、進学や就職で札幌市などの都会に出て、サラリーマンとして雇用され、不自由のない生活が保障され、結婚して子どもを育てるとった「大人になった姿」が、ふと私たち大人の頭をよぎることもあるのではないでしょうか。

私たち教師は、生徒が人生で初めての進路を選択する場面に立ち会います。当然、全ての生徒が自分が希望する進路に進めるように願います。そして、そのときに「少しでもいい高校」、「少しでもいい大学」、「少しでもいい仕事」などの生徒の「成功する姿」を想像してしまいます。「少しでもいい」という言葉は生徒のことを考えているようですが、結局は大人としての価値観の押し付けだと思います。「いい高校なのか」は生徒自身が判断すればよいはずです。先にも記しましたが、何のためにその高校等に進学するのか、進学した高校等で何をするのか、このことを生徒と共有した上で、進路選択の場面に立ち会う必要があります。「成功する姿」から外れることを恐れるのではなくて、生徒の「成長する姿」を大切にして生徒たちに伴走していく必要があるのではないでしょうか。全ての生徒に対して「成長した姿」を踏まえて寄り添っていきたいと思います。